

「せとうち発見の道」企画展

「What's "Ko-Fun" ?

～古墳が語る瀬戸内市の古代とは～

2018年12月11日（火）～2019年2月24日（日）

瀬戸内市民図書館

瀬戸内市には多くの古墳があります。数が多いだけでなく、岡山県指定史跡になっている古墳が4基あります。そして、瀬戸内市内の古墳から出土した鏡など重要な資料が、東京国立博物館に多く所蔵されています。

古墳は、およそ4世紀から7世紀頃につくられた墓ですが、その大きさが権力の大きさを表していたり、古墳に納められていたモノ（副葬品）が葬られていた人物（被葬者）を物語っていたりします。瀬戸内市の古墳から何が分かるのでしょうか。

本展では、瀬戸内市の古墳と、古墳から出土した様々な資料を、実物や写真などでご紹介します。

コフンって、なんだ？

土をこんもりと高く盛った古代の墓を古墳（こふん）と呼んでいます。主な種類に、前方後円墳（ぜんぽうこうえんふん）、前方後方墳、円墳（えんぷん）、方墳（ほうふん）、などがあります。形式と大きさの違いが身分の違いをあらわしていると考えられています。

古墳には、埋葬された人と関わりの深い物品と一緒に納められている場合があります。それを副葬品と言いますが、副葬品が埋葬された人物を知る手がかりとなります。

古墳がさかんにつくられた時代、3世紀半ばから7世紀末頃までを、一般に「古墳時代」と呼んでいます。前方後円墳の登場と消滅で時代を区分して、「前方後円墳時代」と呼ぶべきという考えもあります。



瀬戸内市の古墳

瀬戸内市には多くの古墳があります。前方後円墳は10基以上あり、群集墳と呼ばれる小形の古墳は200基以上が確認されています。

岡山県の史跡に指定されている古墳は4基（花光寺山古墳・築山古墳・鹿歩山古墳・二塚山古墳）、瀬戸内市の史跡に指定されている古墳が2基（牛文茶臼山古墳・牛窓天神山古墳）あります。豪華な副葬品も多数発見されています。

大形の古墳が継続して造られ、吉備（岡山県と広島県東部）の中で、第3位の規模を保ち続けています。吉備勢力の中でナンバー3の地位を占めていた一族が、古墳時代の瀬戸内市に居たと考えられます。

築山古墳（長船西須恵）

●瀬戸内市内の古墳から発見されたモノ

瀬戸内市内の古墳からは、権力の象徴でもある青銅製の鏡など、豪華な副葬品も多数見つっています。これらは、古墳に葬られた人が大きな権力と経済力を持っていたことを示しています。

多くの豪華な副葬品をもつ古墳が多数所在する瀬戸内市は、古墳がつくられた時代、権力者が大きな富を集積できる生産力があつたと考えられます。

みすおちこふん とう かん
水落古墳（邑久町本庄）出土 陶棺

「須恵質切妻家形陶棺（すえしつきりつまいえがたとうかん）」です。屋根の妻部分に「南」の字が刻まれています。

陶棺に文字が刻まれた例は、岡山県内では他に1例（真庭市・定北古墳三号陶棺）しかなく、全国的にみても、とても珍しく、重要な資料となっています。

長さ約84 cm、幅約46 cm、総高約58 cmの小形陶棺です。葬られたのはどんな人物だったのでしょうか。

